


クラス	専門演習 101	担当教員	小國 和子 (おぐに かずこ)
	テーマ	農村・開発・多文化共生 ～フィールドワークを通じて世界を理解する視点を養おう～	
	著書・論文 研究課題等	主編著『支援のフィールドワーク 開発と福祉の現場から』世界思想社、2011（「開発人類学」テキスト）。 共著『フィールドワーカーズ・ハンドブック』世界思想社、2011。 『開発援助と人類学～冷戦・蜜月・パートナーシップ』明石書店、2011。 『開発と農村－農村開発論再考－』アジア経済研究所、2007。 『テキスト社会開発』日本評論社、2006。	

ゼミナール概要

キーワード：インドネシア、フィールドワーク、異文化理解、農業と農村、コミュニティ開発、

本ゼミでは、文化人類学的なフィールドワーク調査方法を身につけ、各自が研究テーマを設定し、実際に体験的なフィールドワークに個々でチャレンジしてもらいます。テーマは自分の関心を探ってみつけていきますが、共通の文献を皆で読んで議論できるように、「多文化共生・農村開発・インドネシア」の3つのキーワードに関心があることが望ましい。

3年時からフィールドワークの計画を練り、長期休みを利用して実践し、得たデータを活用して次年度に「卒業研究」を受講して卒業論文を書くことを前提としたゼミ運営となりますので、卒業論文を書く意欲のある人のみの参加に限ります。毎週、新聞記事に目を通し、たくさん読み、書き、話す事が求められます。覚悟のある人の参加を求めます。

【学習の到達目標】

2年までに培った基礎学力（読む力、書く力、考え・まとめ・発表する力、グループ力）をもとに、

- (1) 日頃から新聞を読み、「世の中の出来事」について知識を深め、事実に裏打ちされた自分の意見を持つ。
- (2) 多くの文献を読み、様々に異なる意見を総合的に分析することで、国際社会で求められる多元的な視点を得る。
- (3) 農村・農業・開発の基礎知識を身につける。
- (4) 教員の調査フィールドであるインドネシアでの調査希望者は、インドネシア語の基礎を習得する。
- (5) 農村はじめ、各自関心のある「現場」でのフィールドワークの方法と計画を自ら企画し、実践する。

→これらより、4年次で執筆する卒業論文のテーマを発見するとともに、論文作成に必要な知識と文章力、調査力、気力と体力、チームワーク力を身につけ、自己課題を考察する総合的な力を養う。

【内容と方法】

- ・フィールドワーク技法を学ぶ（目的、参与観察、KJ法、聞き取り、野外調査の姿勢、ノーツのつけ方、論文執筆）。
- ・語彙を増やし知識をつける（社説やメディアの比較分析：日本とインドネシア、農村の現状、外国人技能実習生等）。
- ・文献を読み解く力をつける（長期休みに複数冊、5000字書評レポートなど）。
- ・マイ・テーマを見つける（個人課題への取り組みと発表、討議）。

【授業計画（スケジュール）】

前期：フィールドワークにかんする参考図書の読解と報告、グループ学習。インドネシア語。

休暇中：各自でフィールド調査に挑戦。条件を満たす場合、インドネシア調査に一部同行可。文献読解。

後期：調査結果まとめ。研究テーマ検討会など。福井県で農業体験&フィールドワーク実習を実施等。

担当教員からのメッセージ

- ・待っているだけの人は、何も得られないで終わります。アイデアを出せる人にはどんどん指導します。
- ・休暇中に福井県の農村での農作業体験&実地ゼミに来る気概がある人を歓迎します。
- ・4年次に卒業論文を書く気で受講してください。論文を書く気のない人は参加しないでください。
- ・「異文化理解」を受講済みで「開発人類学」受講予定の人に限ります。